

提出日： 2026 年 4 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	熊倉 広志

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	研究期間中は、研究会を開催するために日本への一時帰国をした僅かな期間を除き、米国 New York University, Stern School of Management において、Visiting Scholar として研究活動を行った。当研究機関に所属する知人がサバティカル休暇中であったため、彼女のオフィスを借りることができた。 現地では、ほぼ毎日、大学に出勤し、定期的に行われる学内外の研究者による Research Seminar に参加した。これらを起点として、教員、客員研究員および大学院博士課程学生と、研究および私的に交流を行った。 具体的な研究活動として、企業・消費者・市場などから得られた各種のデータを用いて、構造推定モデルを起点に、さらに機会学習や大規模言語モデルなどを組み合わせた手法により、市場における企業や消費者のマーケティング行動・現象について考察してきた。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	具体的な研究成果は以下の通りである。 「日本における鶏卵の需要分析と高病原性鳥インフルエンザによる影響」『オペレーションズ・リサーチ』、71(2)、70-84、2026 年。 「雑誌出版の意思決定モデルー記事のスクープ・後追い・深掘りの構造ー」、令和 7 年度データ解析コンペティション日本マーケティング・サイエンス学会合同部会、2026 年 2 月 15 日。 「埋め込み表現による絵本購買行動の定量的分析 タイトル・表紙画像から評価した整合性と曖昧さを用いて」、令和 7 年度データ解析コンペティション日本マーケティング・サイエンス学会合同部会、2026 年 2 月 15 日。 「Welfare Implications of Highly Pathogenic Avian Influenza (HPAI): Evidence from the Japanese Market」、日本マーケティング・サイエンス学会第 115 会研究大会、2025 年	

	11 月 30 日。 “Welfare Implications of Egg Price Regulation and Bird Flu: Evidence from the Japanese Market,” 2025 INFORMS Marketing Science Conference, June 13, 2025.
今後の 計画に ついて	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	現地にて得られた人的ネットワークを活用しながら、引き続き、企業・消費者・市場などから得られた各種のデータを用いて、構造推定モデルを起点に、さらに機会学習や大規模言語モデルなどを組み合わせた手法により、市場における企業や消費者のマーケティング行動・現象について考察していきたい。